

留萌南部 3 市町地域連携ビジョン

令和 6 年 3 月 2 5 日

留萌市・小平町・増毛町

1 連携地域の名称及び構成市町村

(1) 連携地域の名称

留萌南部3市町連携地域

(2) 構成市町村

留萌市、小平町、増毛町

2 留萌南部3市町地域連携ビジョンの取組期間

令和4年度から令和8年度までの5年間とし、毎年度所要の見直しを行う。

3 連携地域の将来像

(課題)

留萌南部3市町連携地域は、北海道の中央部西端に位置する留萌振興局管内の最南端に位置し、札幌や旭川などの都市圏から半径150km圏内であるため、高規格道路深川留萌自動車道の全線開通により、道央圏、道東圏からの道路アクセスが飛躍的に向上し、さらなる誘客への期待が高まっている。

これまでは、基幹産業である高品質米や地域独自の小麦を生産する農業、生産量日本一を誇る塩かずの子を中心とした水産加工業や漁業があり、地域資源を活用した「食」を中心とした観光振興は本地域のリーディング産業としての地位を確立してきた。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大が観光需要に大きな変化をもたらし、新しい旅行スタイルの推進など、中長期的な視点に立つことが重要となっている。

本連携地域の人口推移は全国及び全道を大幅に上回る減少率となっており、持続可能な地域づくりのためには、現状の観光資源に加え新たな付加価値を見出し、地域全体でスケールメリットを活かした効率的なマーケティングの展開が必要である。

また、本連携地域を構成する市町それぞれにおいて、2050年度までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指すことを宣言しているが、その目標達成のためには、地域の特性にあった再生可能エネルギー利用、省エネルギー化、二酸化炭素吸収促進事業などを推進していく必要がある。

留萌南部3市町連携地域の人口の推移及び推計

(単位：人、%)

	2000	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2020-2050 増減率
留萌市	28,325	26,826	24,457	22,221	20,024	17,747	15,593	13,536	11,626	9,860	8,320	△58.5%
小平町	4,566	4,272	3,717	3,336	2,958	2,604	2,277	1,972	1,700	1,455	1,239	△58.2%
増毛町	6,167	5,708	5,078	4,497	3,908	3,434	3,027	2,660	2,329	2,023	1,746	△55.3%

(参考) 全国 △15.3% (2015年：12,660万人 ⇒ 2040年：10,727万人)

全道 △23.4% (2020年 : 522.5万人 ⇒ 2045年 : 400.5万人)

(目指す姿)

本連携地域を構成する留萌市、小平町及び増毛町では、人々の生活様式、旅行形態、観光スタイルの変化に対応し、広域の優位性を最大限に発揮するため、特色ある取組を互いに連携して積極的に推進していくこととし、具体的には、留萌南部3市町連携地域協定において、生活機能の強化に係る政策分野として産業振興や環境、結びつきやネットワークの強化に係る政策分野として地域内外住民との交流・移住促進を連携項目とした。

4 留萌南部3市町地域連携協定に基づき推進する取組

(1) 生活機能の強化に係る具体的取組

ア 産業振興

(ア) 南るもい広域連携プロモーション事業

〈協定の内容〉

都市部での知名度向上を図るため、留萌南部地域における食を中心とした地域資源を活かした連携による、総合的な広域戦略づくりを展開する。

〈具体的取組〉

事業内容	<p>当地域は、高品質な米をはじめ新鮮な野菜、地域が誇る漁業など豊かな自然の恵みを持つ地域であり、食資源にあふれた地域であるが、原材料の不足や人口減少などの理由により消費の減退が懸念されており、食カテゴリーのみの産業振興の展開は難しく、他の観光施策と絡めた展開が求められている。</p> <p>食資源の活用は観光振興とは切り離せない基本的なサービスであり、多くの観光客が旅行先の食に高い期待を抱いており、観光の付加価値を高める重要な要素でもある。</p> <p>このため、地域消費の拡大を基盤に新たな消費層の創出をしていくために、旅行会社・雑誌社へのプロモーションや首都圏・札幌圏における売り込みなどを行い、更なる魅力の向上や誘客の促進を図っていく。</p>
事業効果	<p>当地域は、これまで食資源を核として、様々な物産展や地域の情報発信などの観光施策を打ち出してきたところであるが、全道、全国における知名度は十分とは言えず、観光客の増加には結びついていない。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大により、今後様々な制約があるポストコロナ時代を迎えることが予想されている中で、留萌振興局管内でも推進していくアウトドア観光に着目して、段階的にアウトドアアクティビティを通じた新たな食のプロモーションを確立させる基盤づくりを実施することで、それぞれの市町が有する地域資源と食資源をマッチングさせた新たな付加価値の創出、滞在時間の延長や交流人口の拡大を図る。</p>

	<p>ていく。</p> <p>また、これまでの取り組みを継続することに加え、アウトドア視点でのブランド力強化を図ることで新たな顧客層の獲得に繋がり、各フィールドへの人の流れが創出され、地域の食資源消費拡大に繋がるといった相乗効果を生み出すことができる。</p>					
役割分担	<p>【担当市町の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体調整及び総合窓口は留萌市 ・民間事業者及び関係団体との企画調整等総合業務 ・各町における重点施策や各種情報の集約業務 <p>【担当市町以外の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏域連携による観光や事業等のプロモーション活動の実施 ・映像及び冊子作成等に伴う取材、情報提供などの各種調整業務 ・各町における重点施策や各種情報の共有 					
指 標	<p>地域内観光入込客数 R1 年度 687.2 千人から 5%増</p> <p>※「令和元年度留萌管内観光入込客数調査」留萌振興局商工労働観光課</p>					
事業費見込額 (単位：千円)	R4	R5	R6	R7	R8	計
	300	300	300	300	300	1,500

〈事業費一覧〉

(単位：千円)

市町村名	R4	R5	R6	R7	R8
留萌市	100	100	100	100	100
小平町	100	100	100	100	100
増毛町	100	100	100	100	100
合計	300	300	300	300	300

イ 環境

(ア) 脱炭素化促進事業

〈協定の内容〉

豊かな自然環境を次世代の子どもたちに引き継ぐため、地域が一体となってカーボンニュートラル実現に向けての取り組みを推進する。

〈具体的取組〉

事業内容	<p>地球温暖化の影響によるさまざまな気象災害が国内各地で毎年のように発生し、甚大な被害をもたらしている。</p> <p>また、地球温暖化の進行に伴うリスクは更に高まることが予測されて</p>
------	--

	<p>おり、自然生態系、産業・経済活動等にも大きな影響が出るものと考えられる。</p> <p>気候変動の原因となっている温室効果ガスは、日常生活や経済活動に伴い排出されていることから、この地域の恵み豊かな環境を守り、将来にわたって安心して暮らせる社会をつくるため、地域が一体となってカーボンニュートラル実現に向けての取り組みを推進する。</p>
事業効果	<p>カーボンニュートラル実現に向けた具体的な手法等について検討を進め、それらの施策を総合的に執行、管理していくためにも、地域における自然的、社会的条件に応じた地方公共団体実行計画の策定が必要であることから、まずはそのための基礎調査を令和5年度に3市町分まとめて実施し、効率的かつ効果的にデータ等を収集することができた。</p> <p>また、今後においても、留萌南部3市町の地域特性を最大限に活かすことのできる風力発電をはじめとした再生可能エネルギー利用、二酸化炭素の吸収に大きな効果が期待できるブルーカーボン事業、カーボンクレジット活用の可能性、地域住民への啓発等脱炭素の推進と、これらに関連する産業の発展についての取り組みを、さまざまな情報等を共有しながら推進することができる。</p>
役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体調整及び総合窓口は留萌市 ・ 地球温暖化防止に関する先進事例等の情報共有 ・ 家庭や事業所部門の温室効果ガス排出量削減に向けた啓発 ・ 地域の特性にあった再生可能エネルギー利用、温室効果ガス排出削減及び吸収に係る調査・研究 ・ ごみの適正排出やリサイクルによる循環型社会形成に関する取り組み
指標	<p>3市町それぞれにおいて策定している地球温暖化対策実行計画（事務・事業編）に掲げる温室効果ガス削減目標</p>

（２）結びつきやネットワークの強化に係る具体的取組

ア 地域内外の住民との交流・移住促進

（ア）地域間交流等誘致促進事業

〈協定の内容〉

令和元年度の高規格道路深川留萌自動車道の全線開通に伴い、都市部からの移動距離が短縮し、留萌南部地域がより身近な地域となったことから、広域連携による交流・移住促進PRの充実を図る。

〈具体的取組〉

事業内容	<p>高規格道路深川留萌自動車道の全線開通や、国道231号、232号及び233号からの広域交通を受け止める広域交流拠点としての立地環境と役割を発揮し、留萌管内の玄関口である道の駅るもいの開設により</p>
------	--



	<p>札幌市、旭川市をはじめとした都市圏からのアクセシビリティが向上され、留萌南部地域への人の流れを拡大する大きな要因となっている。</p> <p>この道路アクセス向上の機会を余すことなく、多様なプロモーションを展開していくことが必要であることから、道内各地からの留萌南部地域までの移動距離が短縮され、留萌南部地域がより身近な地域となることを広く周知するとともに、これまで磨き上げてきた観光資源のプロモーション活動を積極的に実施し、魅力をPRしていく。</p>					
事業効果	<p>高規格道路深川留萌自動車道の全線開通及び道の駅るもいの開設は、道路アクセス向上、観光をはじめとした来訪者への適切な情報発信ができ、隣接した地域への消費誘導などにより、留萌南部地域全体へ経済効果の波及が期待される。</p> <p>また、これらの効果を継続及び留萌南部地域の認知拡大を図るためには、周辺地域が連携し、地域資源の磨き上げ、新たな観光資源の発掘の取り組み、留萌南部地域ならではの独自性溢れたプロモーションを実施することで地域の付加価値が高まり、交流人口及びリピーターの拡大が期待される。</p>					
役割分担	<p>【担当市町の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体調整及び総合窓口は留萌市 ・民間事業者及び関係団体との企画調整等総合業務 ・各町における重点施策や各種情報の集約業務 <p>【担当市町以外の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏域連携による観光や事業等のプロモーション活動の実施 ・映像及び冊子作成等に伴う取材、情報提供などの各種調整業務 ・各町における重点施策や各種情報の共有 ・交流促進及び移住情報の発信 					
指標	<p>①交流人口拡大メニューへの参加者 R1年度 468名から 550名に増 留萌市：音楽合宿 440名、小平町：交流ツアー 18名、増毛町：お試し住宅 10名 ※各市町総合戦略より</p> <p>②協議会公式 Instagram のフォロワー 2,000名に増</p>					
事業費見込額 (単位：千円)	R4	R5	R6	R7	R8	計
	600	600	600	600	600	3,000


〈事業費一覧〉

(単位：千円)

市町村名	R4	R5	R6	R7	R8
留萌市	200	200	200	200	200
小平町	200	200	200	200	200
増毛町	200	200	200	200	200
合計	600	600	600	600	600

5 連携地域の概要

 <p>人口：19,482人 (R4.4月1日現在) 面積：297.84km²</p>	<p>【特産品・グルメ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○かずの子 ○鯺 ○寿司 ○あずま牛 ○豚ジスカン ○やん衆にしんづけ ○ルルロツソ ○豚ちゃん焼 ○カズチー <p>【観光名所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○黄金岬海浜公園 ○千望台 ○ゴールデンビーチるもい ○礼受牧場 ○旧留萌佐賀家漁場 ○道の駅るもい
<p>北海道中央部西端に位置し、北西部は日本海に面している。地名はアイヌ語の「ルルモツペ」が語源で、「汐が奥深く入る川」という意味。江戸末期から明治、大正、昭和と百年以上にわたりニシン漁が人々に与えた恩恵は、暮らしや文化、芸能、建造物に色濃く残っている。</p> <p>水産加工を基幹産業とし、現在はニシンの魚卵であるカズノコの国内最大の加工地となっている。</p> <p>作曲家佐藤勝氏をはじめとする音楽関係者を多く輩出し、近年音楽関係の合宿地として誘致活動が盛んである。</p>	 <p>[黄金岬海浜公園と夕陽]</p>

 <p>人口：2,887人 (R4.4月1日現在) 面積：627.22km²</p>	<p>【特産品・グルメ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ホタテ ○タコ ○うに丼 ○小平牛 ○アイボリーメロン ○にしんの三平汁 ○にしん丼 ○小平牛ハンバーグ <p>【観光名所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○道の駅「おびら鯺番屋」 ○食材供給施設 ○重要文化財「旧花田家番屋」
<p>北海道の西海岸に位置し、明治から大正にかけてニシン漁で栄えてきた。</p>	

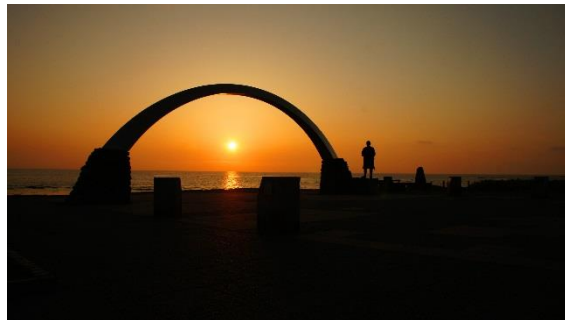
その当時の暮らしを垣間見ることのできる「旧花田家番屋」は、建造物では最北端の国指定重要文化財であり、北海道遺産にも認定されている。

現在は漁業、農業のまちとして、タコ・ウニ・ホタテ・メロンなどを生産している。

夏は、海水浴・キャンプで賑わっており、冬は競技スキーも盛んで、金メダリスト阿部雅司氏やアルペン競技日本代表の滝下靖之氏を輩出している。

地名の語源はアイヌ語で「川口に崖のある所」を意味する「オピラウシペツ」である。

- にしん文化歴史公園
- 望洋台キャンプ場
- 望洋台スキー場
- 海水浴場（臼谷海水浴場・おにしかツインビーチ）
- パークゴルフ場（小平町国際パークゴルフ場・鬼鹿パークゴルフ場）



【にしん文化歴史公園と夕陽】



人口：3,844
(R4.4月1日現在)
面積：369.71 km²

北海道北西部の留萌振興局管内南部の町。

日本海の海岸美が見られる雄冬海岸と暑寒別天売焼尻国定公園の一部である暑寒別岳を抱えている。

町名の由来はアイヌ語の「マシュキニ」が語源で、「カモメの多いところ」という意味。

歴史は古く、町内には重要文化財に指定された旧商家丸一本間家などレトロな建物が立ち並ぶ。

漁業、水産加工業、果樹栽培が盛んであり、また、暑寒別岳の伏流水を利用した酒造も行われており、国稀酒造は日本最北の造り酒屋である。

【特産品・グルメ】

- 国稀 ○甘えび ○ポタンエビ ○タコ
- 海鮮丼 ○ホタテ ○タコ
- さくらんぼ ○洋梨 ○りんご
- ぶどう ○もも ○タコザンギ
- シードル ○タコやわらか煮

【観光名所】

- 国稀酒造 ○旧商家丸一本間家
- リバーサイドパーク ○元陣屋
- 果樹園 ○巖島神社 ○旧増毛小学校
- 暑寒別岳（登山） ○雄冬海岸
- 増毛駅



【旧商家丸一本間家】